

声あわせ「気をつけて」

榎原 こども歳末火の用心行列



6年の児童らが拍子木に合わせて力強く「火の用

年末年始の火の始末に気をつけてもらおうと榎原市小綱町で27日、法被姿の子供ら約70人が町内を歩き、火災への注意を呼びかける「こども歳末火の用心行列」が行われた。写真。同町防災会が主催。

この日は、入鹿神社で地元消防団がポンプ車の機能や構造について説明した後、見回りに出発。ボランティアの中高生が先頭となつてのぼりを持ち、小学1

心」と声を挙げ、同町内約4キを歩いて回った。

同町の小学4年、粕田篤矢くん(10)は「普段はあまり意識しないけど、火には注意しないといけないと思った」と話した。

同町自治会では毎年年末に住人による火の用心を呼び掛ける夜回り活動をしてきたが、高齢化により困難に。

そこで、今年から子供たちによる啓発活動を行うことにした。辻本忠彦自治会長(71)は「子供のころから防火意識を持つことで、安全な町づくりにつなげていきたい」と話した。

拍子木を打って 子ら「火の用心」

樫原

樫原市小綱町で27日、同



町自治会の子供たちが行列を作って、火の用心を呼び掛けた。地域の人たちの防火意識を高めようと自治会などが催し、約70人が参加した。

子供たちは地元の消防団からポンプ車の仕組みについて説明を受けた後、2組に分かれて入鹿神社を出発。約2kmのコースを1時間ほどかけて歩いた。手作りの「まとい」を掲げ、拍子木を打ちながら「火の用心」と呼び掛けた。

境内に戻った子供たちには、災害時の炊き出し訓練を兼ねて作った温かい豚汁が振る舞われた。市立今井小4年の吉田溪人君(10)は「拍子木で上手に音を出せて楽しかった。火事にならないように気をつけます」と話した。

(菅原雄太)